

2024 年度山形県山岳連盟第 1 回常任理事会 速報

文：井上邦彦

- ・冒頭に先日亡くなられた清野孝氏に対する黙とうが行われた。

【報告】

- ・事業経過と事業収支の中間報告および R6 年度における今後の主な事業について報告があった。

【議事】

- ・次期役員候補者について、基本的な方向性が承認された。
- ・アンケートを参考にして、スリム化を図り、動ける人で、若返り+ベテランによる支援とした。SC 部門においては、組織団体が年区切りで役員変更となる。高体連は異動の関係となる。
- ・各団体の連携を図るために実働できるメンバーを各団体から出す。現状や情報を共有するために、理事は各団体の会長全員とする。
- ・某団体から、会員の高齢化を理由として 3 月末での退会の発言があった。

【各委員会】

1 指導員：

アルパインクライミングの研修会を鎌倉山で実施した。6 名の参加。今年度の冬期は行わない。

2 遭難対策：

外国人による登山が増加する中、コンパスから「登山計画書」など様々な名称を「登山届」に統一したいとの提案があった

- ・登山口に QR カードを設置することで容易に登山届が提出する仕組みができた。しかしそこが圏内であることや、山頂までの往復コースなど条件がある。
- ・ココヘリは保険でないので救助費用は支給できないが、オーセディックジャパンが提携している民間救助隊については支給が可能である。
- ・事案が発生した時、警察、消防、スキーパトなどの連携状況は山域によって異なる。

3 自然保護：

栗子風車問題の礼、朝日山地検討委員会におけるニホンジカの調査（イノシシは爆発的に増えているが、シカはそれほどでない）

- ・登山道保全作業と講習会は、7 月那須平成の森、9 月飯豊連峰梶川尾根、10 月月山山頂域、10 月岩手三石山現地検討会、10 月新潟守門岳で実施した。

4 山岳文化：

- ・清野氏が管理している「齋藤文庫」について、小国町に寄贈する方向である。

5 普及：

- ・過日的那須岳遭難を受けて、高校生の冬山登山禁止となる。冬期の活動方法について県教委と協議して行きたい。